

中国広西チワン族自治区の風雨橋

○日本大学	学生会員	吉田 全克
日本大学大学院	学生会員	金 哲錫
日本大学	非会員	野水 雅之
日本大学	正会員	伊東 孝

1. はじめに

中国の広西チワン族自治区・三江トン族自治県（以下：広西・三江と略称）と貴州省東南部、湖南省には、トン族と呼ばれる木材加工に秀でた民族が住んでいる。各村の中心には、「鼓楼」と呼ばれる多層屋根の建物が建造されている。この建築様式で造られた屋根付橋を「風雨橋」といい、各村の入り口に存在する。風雨橋の「風雨」は風調雨順（気候が順調であるという意味）からきている。

トン族独特の屋根付橋である風雨橋は大小合わせて約600橋ある。そのなかで貴州省には約400橋あり、次いで広西・三江には約160橋、湖南省では約50橋あるが、このなかでも最も有名な風雨橋は広西・三江に存在する。¹⁾

ここでは今まで十分に内容が明らかにされていなかった三江の風雨橋の実態について、2005年8月下旬、日本橋梁専門家訪中団（団長：伊東孝）が3日間というわずかな期間だが現地を訪問し、新たな知見を得られたので報告する。

2. 風雨橋の概要

(1) 歴史：「風雨橋の建造の歴史は古いが、楼閣式の風雨橋は19世紀の末頃から20世紀の初めにかけて建設されはじめた。これ以前は、「すべて単層の瓦葺き、または原木の大きい杉木を配列した簡易橋であった」²⁾。三江自治県には118のトン族の部落があり、それと同じ数だけの風雨橋があり（現地でのヒアリング）、最古の風雨橋は1910年建造の巴団村風雨橋である²⁾。この橋は橋面に段差をつけ、下側が家畜用、上側が歩行者用と、人畜分離の風雨橋である。橋長50m、2連。

(2) 架設場所と橋の機能：トン族は元来山岳民族で、川の傍まで降りてきて集落を建設した。橋の架設場所は、上流と下流側とが考えられるが、都市から帰ってきたとき最初にたどり着く村の施設として、下流側や田

んぼの辺りに架けられている。風雨橋は、村の入口であるとともに、村を守り、ふだんは憩いの場、集いの場、涼みの場である。（ヒアリング）

(3) 構造と材料：橋は、下から下部（橋台、橋脚）、桁部、橋面部、屋根部とに分かれる（図-1）。日本の猿橋と同じ肘木橋で、異なる点として猿橋の構造は、加工された肘木の斜めの一端を橋台に直接埋め込み、肘木にかかる荷重を橋台で受けるようにしている。だが風雨橋では、橋台・橋脚の上にある肘木を釘などで固定せず、丸木を交互に十字形に積み上げ、並列で水平に架け、このように楼閣が重石として架設している。

風雨橋のスパン長は、20～25m前後が多いが、最長33m（賜福橋^{しふくきょう}）のものもあった。猿橋の橋長（スパン長）31mから考えると、35m前後が木造片持ち梁の最長スパンなのかも知れない。

上部構造の材料は、杉である。橋脚の水切りは、平面的にみると細長い六角形で、先端部は68°に仕上げられている（図-2）。橋脚・橋台の外回りは切石造りで、内部には碎石が詰められている（図-2）。さらに、橋を保護する神への祈りと同時に村の人々の健康を願う意味で、橋脚・橋台の中に金や銀の服飾品を入れてある³⁾。

基礎は、橋台と橋脚の基礎とはちがっている。橋脚の基礎は、手掘り^{ていようえいさいきょう}で7m（程陽永濟橋）掘って橋脚を据えたが、両端の橋台は地盤の上に直接橋台を築いた（ヒアリング）。

(4) 設計：棟梁は石工を兼ね、橋台や基礎の構築・指示をだす。また上部構造の図面はなく、あるのは模型のみである。棟梁は、寸法の書かれた部材を意味する竹指しをつくり、それを各大工にわたす。各大工は、寸法にしたがって部材をつくる。橋の建設に際して、村人は部材を背中に担いで運び、組み立てには、釘を一本も使用しない。橋を架設するとき、支保工を用いたと考えられる。

キーワード： 風雨橋 屋根付橋 三江トン族自治県 トン族 鼓楼

連絡先： 〒274-8501 千葉県船橋市習志野台 7-24-1 社会交通工学科都市環境計画研究室 TEL/ FAX 047-469-5572

3. 風雨橋のディテール

以下では、馬安村にある程陽永濟橋を事例に、風雨橋のディテールを紹介する。

(1) 馬安村の概要 (図-3)

馬安村は林溪河が大きく湾曲する丘陵部に位置し、ここには西側に程陽永濟橋、東側に平岩橋の風雨橋がかかる。村の中心部分に鼓楼がある。鼓楼は、太鼓のある高い塔で、異変があったり、人を呼び寄せたいときに太鼓を叩いて村人に知らせた。さらに平岩橋の上流に歩いていくと、支流に二つの風雨橋をみることができる。この辺りは、風雨橋が連続して架かっている。(ということは、部落が近接していることになる。)

(2) 程陽永濟橋 (写真-1) の概要

1912年起工、12年後の1924年に竣工。橋長77.76m、幅員3.75m、4スパン。1937年および1983年に洪水にあい、橋の一部が破壊したが、元通りに修復されている。1982年2月23日、全国重点文物保护单位に指定された。

程陽永濟橋の位置する馬安村は、主要都市の三江から近いと、三江・風雨橋の代名詞になり、観光施設になっている。橋上には物売りの人たちが多い (写真-2)。

(3) 各部のディテール

以下、中央橋脚の鼓楼造りの天井見上げと片持ち梁部の部材構成を、それぞれ写真-3と写真-4に示した。

4. おわりに

広西・三江の風雨橋はトン族の各村の入り口にあり、鼓楼とともに村のシンボルになっている。橋は川を渡るためだけでなく、村の安全を守り、憩いの場、集いの場、涼みの場にもなっている。また風雨橋のなかには、巴団村風雨橋のように人畜分離のものもある。

生活橋としての風雨橋の佇まいをみるには、程陽永濟橋より奥地にいかないとダメである。

参考文献

- 1) 石開忠『侗族鼓楼』華夏文化芸術出版社、p.113, 2001年
- 2) 出田肇『中国木造屋根付橋』地域環境研究所、p.188, 1998年
- 3) 李氏杰『桂林民間建築』中国建築工出版社、pp.208 - 239, 1990年

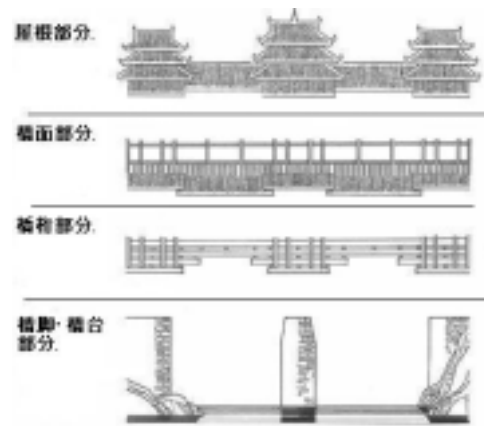


図-1 「風雨橋」の構造³⁾

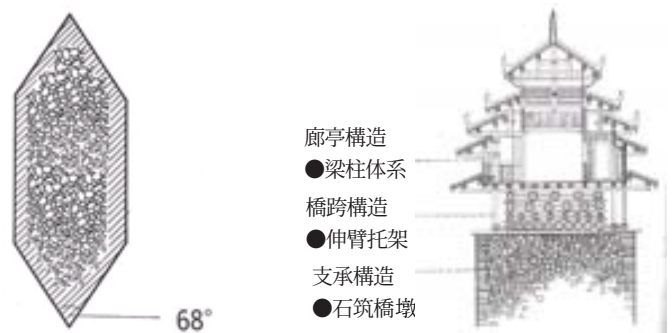


図-2 「風雨橋」の水切り断面と橋脚断面³⁾

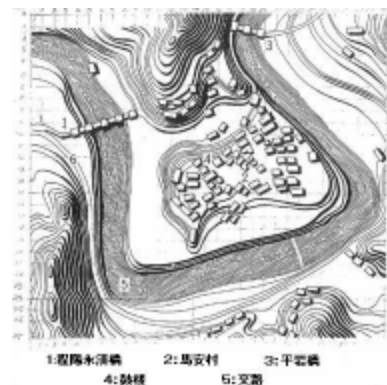


図-3 馬安村³⁾



写真-1 程陽永濟橋

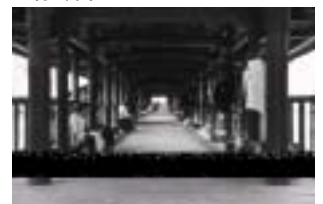


写真-2 橋上の土産売り

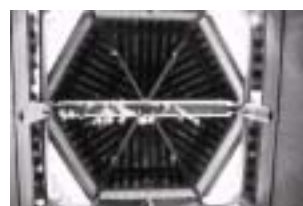


写真-3 中央橋脚の鼓楼造りの天井見上げ



写真-4 片持ち梁部の部材構成